

船舶事故等調査報告書

平成25年3月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012広第209号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成24年10月10日 06時00分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港 水島港玉島乙島防波堤灯台から真方位151° 1,950m付近 (概位 北緯34° 30.5′ 東経133° 42.1′)
事故等調査の経過	平成24年11月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第三十五勝丸、499トン
船舶番号、船舶所有者等	134189、勝丸海運建設株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船尾船底に凹損、プロペラ翼に曲損
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、再生砕石約1,750tを積載し、船長が船橋当直に就き、船首約4.0m、船尾約5.0mの喫水で水島港内を約3ノットの対地速力により北進中、平成24年10月10日06時00分ごろ浅所に乗り揚げた。 船長は、高潮時に水島港へ入港するので乗り揚げることはないものと思い、事前に海図などで水島港付近の水路状況の調査を行っていなかった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：波 なし、潮流 なし、潮汐 高潮時、潮高 約2.3m 日出時刻：06時06分
その他の事項	水島港付近の水深は、約2.1～2.8mであった。 船長は、水島港付近を数回航行したことがあったが、正確な水深を把握しておらず、航行中に水深を確認していなかった。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、水島港内を北進中、船長が、高潮時に入港するので乗り揚げることはないものと思い込み、水島港付近の水路状況の調査を行っていなかったことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、水島港内を北進中、船長が水島港付近の水路状況の調査を行っていなかったため、浅所に乗り揚げたことによ

	り発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 出航前には、海図や港湾情報などにより航行する海域の水路状況を調査すること。